



諸橋近代美術館は現在、冬期休館中です。その間、
当館の所蔵作家でスペインが生んだ20世紀の
巨匠サルバドル・ダリ(1904-1989)の作品に
登場する‘食べもの’を紹介します。ダリが食べもの
に固執した理由や秘密を探ります。



作品写真「えび電話」1936年 テート・モダン(英国・ロンドン)所蔵
© Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí, SPDA Tokyo, 2012

第2回

「ダブルイメージと人間の本性」

電話の受話器がえびに？まったく関連性がなさそうですが、よく見ると受話器とえびの形が似ています。これはダリが得意とした「ダブルイメージ」という表現。一つのものから全く別のイメージを、無意識な状態から生み出す表現です。そして、えびにはもう一つの秘密があります。ダリには母体の中は居心地がよかったという生まれる前の記憶があったそうです。その結果、ダリは外が固く、中が柔らかい食べ物、卵、かたつむり、パンなどを作品に登場させました。何かに守られ、食して生きること。ダリは人間の本性を痛快に表現したのです。

公益財団法人
諸橋近代美術館



morohashi museum of modern art

福島県耶麻郡北塩原村松原字刺ヶ峰1093番 TEL 0241-37-1088 URL <http://dali.jp>

只今 冬期休館中 休館期間：2012年12月1日～2013年4月19日